

2018－2019 BADMINTON 競技規則(諸規定集)の

発刊について

—(公財)日本バドミントン協会競技審判部通達より—

—スコアリングシステムに関する改訂(ニュースコアリングシステム) と サーバーによって打たれる瞬間のシャトルの高さ制限の改訂(サービス高の固定 1.15m)—

現在何かと話題になっております表記ルール改訂とそれに伴う競技規則書 並びに ルール教本の発刊に関する現況の報告と、今後の見通しについてお知らせ致します。

昨年11月に開催されましたBWF理事会において「スコアに関する改訂とサーバーによって打たれる瞬間のシャトルの高さ制限の改訂」に関する協議がなされ、スコアリングシステムに関しては、現時点において11ポイント5ゲーム制へ移行する案が理事会案として本年5月に開催されるBWF総会に上程される公算が高くなりました。

又、サービス高に関しましては、本年3月1日から12月31日までに開催されるBWFのグレード1大会(ジュニア大会は除く)と、グレード2のすべての大会において試験的に採用される事になりました。国内においては、ヨネックス・秋田マスタース2018(7月)と、ダイハツ・ヨネックスジャパンオープン2018(9月)の2大会が該当することになります。

そのような背景から、例年ならば本年度4月に発刊が予定されている表記の競技規則並びにルール教本ですが、発刊してから2か月も経たないうちにルール改訂が実施される恐れもあり、発刊を本年8月1日に延期することと致しました。

又、ニュースコアリングシステムが5月のBWF総会で承認された場合、BWF主催大会では、翌月6月からの大会での新システム実施になることが予想されますが、(公財)日本バドミントン協会第1種大会では、8月1日からニュースコアリングシステムを導入し、平成30年度内は、大会主管団体において、現行スコアリングシステムもしくはニュースコアリングシステムの、どちらかを選択できる猶予期間とし、平成31年度からは、ニュースコアリングシステムのみとする予定です。

一方、サービス高1.15mの固定については、平成30年5月開催予定のBWF総会の動向を見る事とし、平成30年度中(平成31年3月末日迄)は、現行のままとし改訂の予定はありません。